

## 愛媛県松山市沖の砂堆“大州”の砂浪移動様式

## Sedimentation of large sand dune -Ozu- (off Matsuyama city, Ehime Prefecture)

# 吉原 裕紀 [1]; 岩本 直哉 [2]; 井上 卓彦 [3]; 布川 裕也 [4]; 芦田 貴史 [5]; 中原 知明 [6]; 深井 照平 [7]; 井内 美郎 [8]

# Yuuki Yoshihara[1]; Naoya Iwamoto[2]; takahiko inoue[3]; Yuya Fukawa[4]; Takafumi Ashida[5]; Tomoaki Nakahara[6]; Syouhei Fukai[7]; Yoshio Inouchi[8]

[1] 愛大・理・生地; [2] 愛大・理工・環境; [3] 愛大・理工・環境; [4] 愛大・理工・生地; [5] 愛大・理工; [6] 愛大 理 生地; [7] 愛大・理・生地; [8] 愛大・沿岸環境センター

[1] Biology and Earth Sci., Ehime Univ.; [2] Earth Sci., Ehime Univ.; [3] Graduate School of Sci. and Eng., Ehime Univ.; [4] Biology and Earth Sci., Ehime Univ.; [5] Earth Sci., Ehime Univ.; [6] Biology and Earth sci, Ehime Univ.; [7] Biology and Earth sci, ehime Univ.; [8] CMES, Ehime Univ.

瀬戸内海の海底には砂堆と呼ばれる砂(礫)で構成された比較的浅い堆積地形が数多く見られる。これらは海峡を通り抜けた潮流速が減衰する海域に形成される。

砂堆“大州”は愛媛県松山市北東沖にある東西約2km, 南北約2kmの海底砂堆である。大州の海底地形は北西から南東に向かって徐々に浅くなり, 最も浅くなる大州南部と北東部のさらに陸側の海域に急斜面を持つ。水深は最も浅いところで, 北東と南部の急斜面頂上で5~6mとなっている。大州を形成する砕屑物は, 西部の釣島海峡(最深部約150m)と南西部の高浜水道(最深部約50m)の海釜から供給されたものである。大州近海の表層では最大潮流速が上げ潮時北東へ2.7ノット, 下げ潮時南西へ2.4ノット(海上保安庁, 1999)である。

2003年2004年2005年に実施した調査結果をもとに海底地形比較を行った結果, 大州上に分布する2次的デューンは北東方向及び南東方向へと移動していることが分かった。この移動量や移動方向は, 場所やそれぞれの年によって異なった傾向が見られる。よって大州上のデューンの移動は, その年々の潮流や風速により支配されていると考えられる。

さらに, 大州の南東エリアでは2次的デューンの収れんが確認された。つまり南東エリア北東部では南西方向へ, 南西部では北東方向へそれぞれ移動している。そして, 南東エリア南東部では浅くなる傾向が見られることから, 収れん域に集積した砕屑物は, 大州の南東部へ排出されていると考えられる。